

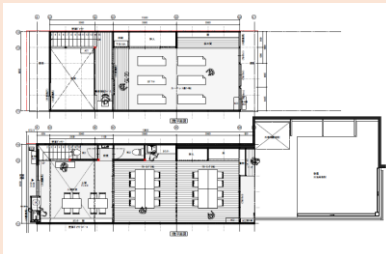
交流拠点の活用レイアウトが一定固まりました。

第6回北条旧市街地町屋くらし再生塾では、前回に引き続き、交流拠点の活用とあわせ、運営方法についての事例をもとに意見交換が行われました。

そのほか、視点を北条旧市街地に戻し、今後必要な拠点の機能について、再度話し合いを行いました。

前回のA案をベースに交流拠点の活用レイアウトが固まりました。

活用レイアウトの検討



【主な意見】

- ・観光客目線、住民目線と大きく2つの目線で使い分けられるとよい。
- ・トイレは、例えばタンクレス等、もっと広く使える仕組みも考えられると思う。
- ・防音についても今後検討していく必要がある。家具等の配置で対応を検討。
- ・ふるさと創造会議や自治会の会議に使えるか。
- ・常設の運営として、歴史パネルや街角写真展など、子どもや高齢者の交流をメインに据えるのもよい。

【運営についての事例（豊岡市竹野 なごみてえ）】

- ・地元住民の居場所として運営。今のところ観光客の利用は見据えてない。
- ・改修資金は、県2分の1、市4分の1、自治会が4分の1負担し、運営は地元のボランティア主体。運営ボランティアは約30人で、年齢は20代～60代以上と幅広く在籍。ただし平日日中の運営は高齢者が主体。
- ・コーヒーやジュース、うどんなど常時200円で提供しており、これらで固定資産税と光熱水費を回収できている。
- ・レンタルスペースはどの時間帯でも500円で設定。夏・冬といった光熱費がかかる時期は上乗せした料金設定。レンタルスペースでは、体験講座、流木をつかった工作などを行っている。



運営方法や新たな拠点機能について検討しました。

■実施日
3月29日
■場所
旧春陽堂

【運営収支（案）に対する考え方について】

- ・年間利用へのインセンティブを持たせることで需要が見込まれる。
- ・ただし、会員となる町内会や自治会をどれだけ集められるかは課題。

【運営組織の設立の方向性】

- ・今後の法人化を視野に入れるのであれば、設立期間の短いLLCからの参入が妥当。
- ・多様な団体や主体を中心として運営していくのであれば、LLPで組織化するほうがよい。

【今後の整備に向けて】

- ・カフェ等の飲食店機能だけでなく、北条ならではの機能に特化しないと特徴を出せない。

【エリアリノベーションに向けて】

- ・個人ベースで気軽にチャレンジショップを開ける環境にしていけたらよい。
- ・子どもが楽しい活気のあるまちにしていきたい。
- ・エリアリノベーションに向けて、主に子どもや高齢者にねらいを定めていく方向がよい。
- ・建設予定のホテルから歩いていける距離に飲食を提供できる場所を確保できるとよい。

【活気を取り戻すために】

- ・全国的に有名なものが加西及び播磨の国にあるが、PRできていない。北条を拠点として情報発信できないか。
- ・北条エリアを中心に、体験農業や情報発信ができる仕組みがあるとよい。（みその販売など）
- ・高校生レストランなどを北条地区でついたり、誘致したりできないか。
- ・市街地内に街道が東西に長く延びているのは珍しく、商売のまちとしてこれを有効活用できるとよい。（食と農を組み合わせる）

当日の様子



明石高専の工藤先生より、豊岡市竹野「なごみてえ」の運営について、事例を報告していただきました。（前頁参照）



運営組織をはじめ、運営費に関する試算やスケジュールなどの事例が報告されました。



北条旧市街地のリノベーションについて、イベントや新たな拠点機能の内容について話し合いました。